

I 畜産関係業務

1 畜産業振興事業に対する補助業務

平成24年度に実施した畜産業振興事業は、25事業882億3300万円（平成23年度からの予算繰越分4事業138億5400万円及び緊急対策9事業48億100万円を含む。）であり、主な事業内容等は次のとおりである。

(1) 肉用牛対策

東日本大震災による消費の減退や牛肉からの暫定規制値を超える放射性物質検出の影響から低迷していた牛枝肉価格は、24年度には回復傾向で推移したため、これに伴い肥育経営の収益性も徐々に改善に向かって推移した。

こうした中、肉用牛肥育経営安定特別対策事業に係る補填金については、肉専用種では年度後半の24年12月及び25年2月以降の交付はなく、交雑種及び乳用種では年度を通じて交付はあったものの、年度の後半には徐々に補填金単価は低下した。その財源として、都道府県団体に対し、それぞれ生産者積立金に対応した基金造成必要額への補助（541億1200万円、平成23年度からの予算繰越分74億3900万円を含む。）を行った。なお、平成25年2月及び3月分については、基金の造成が平成25年4月以降になることから、平成25年度に予算を繰り越して対応した。

また、都道府県団体に基金を造成する従来方式に加えて、機構に基金を造成し肥育牛生産者に直接補填金を交付する方式（直接交付方式）を平成23年度に引き続きモデル的に実施した。

なお、放射性物質問題への対応として、24年7月以降実施している四半期ごとに交付する補填金を月ごとに支払う特例措置を、年度を通じて実施した。

表 1 肉用牛肥育経営安定特別対策事業の補填金単価

(単位：円/頭)

	肉専用種	交雑種	乳用種
24年 4 月	7,600	91,900	108,300
24年 5 月	25,000	89,500	84,700
24年 6 月	30,900	114,100	76,400
24年 7 月	25,400	115,500	75,000
24年 8 月	82,400	122,000	79,600
24年 9 月	46,300	111,000	82,200
24年10月	50,100	113,000	77,800
24年11月	8,400	91,200	70,900
24年12月	—	52,100	68,000
25年 1 月	29,600	87,600	63,500
25年 2 月	—	78,300	69,200
25年 3 月	—	45,800	65,600

注：補填金交付額に見合う財源が不足したため、理事長の承認を受けて、上記補填金単価を減額したことがある。

表 2 肉用牛肥育経営安定特別対策事業の補填金交付状況

(単位：千円、戸、頭)

	補填金交付額	交付対象戸数	交付対象頭数
肉専用種	10,169,986	38,126	311,518
交雑種	19,538,113	16,035	214,394
乳用種	17,519,283	7,034	227,971
合計	47,227,382	61,195	753,883

注 1：数値は、都道府県団体方式及び直接交付方式の合計値である。

2：補填金交付額には、生産者拠出分を含む。

3：交付対象戸数は、補填金の交付を受けた延べ戸数である。

(2) 養豚対策

平成24年度は、出荷頭数の増加などにより、第1～4四半期の全ての四半期において豚枝肉平均価格が保証基準価格（460円/kg）を下回ったため、養豚事業者に対して養豚経営安定対策事業に係る補填金を347億1,034万円（うち2分の1が補助金。2分の1が生産者負担金）交付した。第3及び第4四半期においては、豚価の低迷に対応するため、24年度の補正予算で措置された積み増し分を活用し、生産者負担金の引き上げ（700円/頭→2,200円/頭）を行い、算定された補填金単価を全額交付した。なお、第4四半期分については、支払が平成25年4月以降になることから、平成25年度に予算を繰り越して対応した。（表3、表4）

表3 養豚経営安定対策事業の補填金単価

（単位：円/kg、円/頭）

補填金の算定対象期間	豚枝肉平均価格	補填金単価
第1四半期 （平成24年4～6月）	440	1,230
第2四半期 （平成24年7～9月）	458	120
第3四半期 （平成24年10～12月）	390	4,310
第4四半期 （平成25年1～3月）	391	4,250

表4 養豚経営安定対策事業の補填金交付額及び交付対象事業者数

（単位：千円、戸）

	補填金交付額	交付対象事業者数
合計	34,710,335	3,166

注：補填金交付額には、生産者拠出分を含む。

(3) 補完対策

ア 酪農・乳業関係

酪農ヘルパー要員の雇用環境の整備、酪農家の傷病時におけるヘルパー利用の円滑化等による酪農ヘルパー制度の総合的な推進並びに牛群検定システムによるデータ収集やこれを活用した品質改善及び飼養管理改善の取組に対する支援に係る1事業（3億7000万円）を実施した。

イ 肉用牛・食肉等流通関係

肉用牛ヘルパー組織及び地域の特色ある肉用牛振興への取組等に対する支援並びに総合的な食肉流通施設整備等を通じた安全・安心な食肉等の流通体制の確立などに係る2事業（22億7300万円）を実施した。

ウ 資金・リース対策

家畜排せつ物の利活用の推進や畜産環境の整備に必要な施設等の導入支援及び負債の償還に支障を来している経営や家畜伝染病発生による深刻な影響を受けた経営に対する資金の融通支援を行う 2 事業（20億5900万円）を実施した。

エ 国産畜産物の安心確保対策ほか

牛肉骨粉や牛せき柱の適正処分等に対する支援及び家畜伝染病の発生に備えるための互助事業の普及・指導並びに家畜個体識別システムの円滑な運用の確保等国産畜産物の安心確保及び安定供給に資する 3 事業（69億7100万円）を実施した。

2 加工原料乳生産者補給交付金の交付業務

(1) 生乳生産の動向

生乳生産量は、22年度の猛暑、東日本大震災の影響により、減少傾向が続いていたが、24年度以降3年間は前年度実績以上の目標数量の配分を行う中期計画生産の方針に基づき、生産者による増産の取組が進み、24年度は760万7400トン（対前年度比101.0%）と7年ぶり（都府県では16年ぶり）に増加した。

このような生乳の生産状況等から、平成24年度において指定生乳生産者団体（以下「指定団体」という。）が取扱った生乳の受託販売数量は、734万4027トン（同101.1%）と前年度を上回った。用途別では、牛乳等向けが減少傾向を続ける中で、近年伸びが顕著なクリーム等向けの増加も僅かだったことから、加工原料乳として農林水産省生産局長及び道県知事が認定した数量は前年度比で6.9%増加した。しかしながら、加工原料乳の認定数量は、結果的に限度数量の183万トンを下回る174万5158トンにとどまった。

(2) 生産者補給交付金の交付

ア 指定団体別の限度数量

指定団体別の限度数量については、当初から全体の限度数量183万トンの配分が行われた。

イ 生産者補給交付金の交付等

生産者補給交付金の交付については、交付対象数量174万5158トンについて212億9093万円を交付した（表5）。

本事業の実施に当たり、本年度において機構が国から受け入れた交付金の額は、181億7216万円（生産者補給交付金181億4508万円、業務委託費等2708万円）であった。

表5 平成24年度加工原料乳生産者補給交付金交付状況

	受託販売生乳数量		加工原料乳認定数量		生産者補給交付金 交付対象数量		生産者補給交付金額	
	実数	対前年度比	実数	対前年度比	実数	対前年度比	実数	対前年度比
	(トン)	(%)	(トン)	(%)	(トン)	(%)	(千円)	(%)
第1四半期	1,893,512	102.2	464,755	107.1	464,755	107.1	5,670,015	109.3
第2四半期	1,811,828	102.6	368,650	113.5	368,650	113.5	4,497,527	115.8
第3四半期	1,801,074	100.6	397,749	102.9	397,749	102.9	4,852,534	105.1
第4四半期	1,837,614	99.0	514,005	105.7	514,005	105.7	6,270,857	107.9
年度計	7,344,027	101.1	1,745,158	106.9	1,745,158	106.9	21,290,933	109.2

表6 平成24年度指定団体別加工原料乳認定状況

	受託販売生乳数量		加工原料乳認定数量		加工原料乳発生率	
	実数①	対前年度比	実数②	対前年度比	②/①	前年度
	トン	%	トン	%	%	%
全 国	7,344,027	101.1	1,745,158	106.9	23.8	22.5
北 海 道	3,826,542	101.1	1,420,945	104.4	37.1	36.0
都 府 県	3,517,485	101.0	324,214	119.6	9.2	7.8
東 北	582,393	103.3	81,990	117.5	14.1	12.4
関 東	1,151,993	101.0	122,161	128.5	10.6	8.3
北 陸	99,212	98.6	2,316	130.7	2.3	1.8
東 海	399,779	99.7	20,141	114.0	5.0	4.4
近 畿	181,971	97.9	2,038	188.4	1.1	0.6
中 国	292,824	101.2	12,076	116.3	4.1	3.6
四 国	132,381	97.7	7,445	99.2	5.6	5.5
九 州	652,984	102.0	75,945	112.2	11.6	10.6
沖 縄	23,949	99.2	103	151.9	0.4	0.3

表7 平成24年度指定団体別生産者補給交付金交付状況

	生産者補給交付金 交付対象数量		交付対象となら なかった加工原 料乳数量	生産者補給交付金額		
	実数	対前年 度比		実数	構成比	対前年 度比
	(トン)	(%)	(トン)	(千円)	(%)	(%)
全 国	1,745,158	106.9	0	21,290,933	100.0	109.2
北 海 道	1,420,945	104.4	0	17,335,527	81.4	106.6
都 府 県	324,214	119.6	0	3,955,406	18.6	122.1
東 北	81,990	117.5	0	1,000,275	4.7	120.0
関 東	122,161	128.5	0	1,490,264	7.0	131.2
北 陸	2,316	130.7	0	28,250	0.1	133.5
東 海	20,141	114.0	0	245,716	1.2	116.4
近 畿	2,038	188.4	0	24,863	0.1	192.4
中 国	12,076	116.3	0	147,324	0.7	118.8
四 国	7,445	99.2	0	90,833	0.4	101.2
九 州	75,945	112.2	0	926,531	4.4	114.5
沖 縄	103	151.9	0	1,251	0.0	155.1

3 肉用子牛生産者補給交付金等の交付業務

(1) 肉用子牛価格の動向

東日本大震災の影響等による枝肉価格の低下から、平成23年度に入ってから軟調に推移していた肉用子牛価格は、平成23年末に向け黒毛和種を中心に回復傾向に転じ、景気回復による枝肉価格の上昇等から、同24年度の肉用子牛はいずれの品種とも上昇した。

ただし、「その他肉専用種」については平成21年度第3四半期以降、「乳用種」については平成19年度第2四半期以降、いずれも保証基準価格を下回る水準で推移した。

(2) 生産者補給交付金等の交付

ア 生産者補給交付金

平成24年度（交付対象期間：平成24年1月～12月）においては、「その他肉専用種」及び「乳用種」の平均売買価格が保証基準価格を下回ったため、生産者補給金が交付された。また、「その他肉専用種」は第1～3四半期、「乳用種」は第1四半期において合理化目標価格も下回ったため、生産者積立金からも生産者補給金が交付された。

この結果、生産者補給金は60億372万円（機構から指定協会に交付する生産者補給交付金は58億9926万円、指定協会の生産者積立金取崩しは1億446万円）が交付された。（表8～9）

イ 生産者積立助成金

平成24年1月から12月までの間に個体登録された肉用子牛の頭数（全品種合計88万6359頭）に応じ、生産者積立金の積立に要する経費の2分の1の助成を行うため、指定協会に対し25億8189万円の生産者積立助成金を交付した。

表8 指定肉用子牛の平均売買価格

(単位：円／頭)

品種区分 価格	黒毛和種	褐毛和種	その他の肉 専用種(日本 短角種等)	乳用種	交雑種・乳
平成23年度					
保証基準価格	310,000	285,000	204,000	116,000	181,000
合理化目標価格	268,000	247,000	142,000	83,000	138,000
生産者積立金 (うち生産者負 担金)	2,200 (550)	11,900 (2,975)	24,400 (6,100)	12,700 (3,175)	5,000 (1,250)
平均売買価格					
第1四半期	400,700	324,700	177,500	91,800	259,500
第2四半期	382,300	326,600	102,300	94,700	218,300
第3四半期	397,900	307,400	127,300	89,200	227,300
第4四半期	424,200	331,600	152,400	89,900	240,700
平成24年度					
保証基準価格	310,000	285,000	204,000	116,000	181,000
合理化目標価格	268,000	247,000	142,000	83,000	138,000
生産者積立金 (うち生産者負 担金)	2,200 (550)	11,900 (2,975)	24,400 (6,100)	12,700 (3,175)	5,000 (1,250)
平均売買価格					
第1四半期	402,700	349,600	130,100	81,500	218,100
第2四半期	402,100	360,800	108,900	91,900	210,500
第3四半期	424,800	376,800	137,800	97,800	222,700
第4四半期	452,700	401,800	170,800	105,400	241,200

表9 平成24年度肉用子牛生産者補給金の交付状況

(単位：千円)

交付対象期間	品種区分	生産者補給金		
		補給交付金部分	生産者積立金部分	計
平成23年度 第4四半期 (平成24年1～3月)	黒毛和種	0	0	0
	褐毛和種	0	0	0
	その他の肉専用種	33,230	0	33,230
	乳用種	1,481,619	0	1,481,619
	交雑種	0	0	0
	計	1,514,849	0	1,514,849
平成24年度 第1四半期 (平成24年4～6月)	黒毛和種	0	0	0
	褐毛和種	0	0	0
	その他の肉専用種	39,060	6,747	45,807
	乳用種	1,828,497	74,802	1,903,299
	交雑種	0	0	0
	計	1,867,557	81,549	1,949,106
平成24年度 第2四半期 (平成24年7～9月)	黒毛和種	0	0	0
	褐毛和種	0	0	0
	その他の肉専用種	33,728	16,206	49,934
	乳用種	1,391,462	0	1,391,462
	交雑種	0	0	0
	計	1,425,190	16,206	1,441,395
平成24年度 第3四半期 (平成24年10～12月)	黒毛和種	0	0	0
	褐毛和種	0	0	0
	その他の肉専用種	109,988	6,706	116,694
	乳用種	981,672	0	981,672
	交雑種	0	0	0
	計	1,091,660	6,706	1,098,366
合 計	黒毛和種	0	0	0
	褐毛和種	0	0	0
	その他の肉専用種	216,006	29,659	245,665
	乳用種	5,683,249	74,802	5,758,051
	交雑種	0	0	0
	計	5,899,255	104,461	6,003,716

注：平成24年度の交付対象期間は平成24年1月から12月までである。